

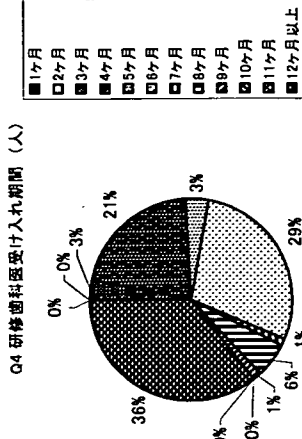
別添資料 9

協力型臨床研修施設向け研修の効果に関するアンケート

【必須入力チェック項目】	
Q16 研修期間について回答ください (ラジオボタン) (回答数: 265件)	
1年間	189 (89.0%)
2年間	70 (28.0%)
その他	6 (2.4%)
無回答	0 (0.0%)
【必須入力チェック項目】	
Q17 協力型臨床研修施設での研修期間について回答ください (ラジオボタン) (回答数: 245件)	
3ヶ月間	29 (11.8%)
6ヶ月間	121 (49.4%)
1年間	75 (30.6%)
その他	20 (8.2%)
無回答	0 (0.0%)
【必須入力チェック項目】	
Q18 新設臨床研修施設の質の向上への貢献度について回答ください (ラジオボタン(マシックス)) (回答数: 45件)	
貢献した	115 (46.9%)
少し貢献した	115 (46.9%)
あまり貢献していない	10 (4.1%)
貢献していない	5 (2.0%)
無回答	0 (0.0%)
【必須入力チェック項目】	
Q19 研修施設に属することを認識してください (テキストエリア) (回答数: 171件)	
Q20 管理臨床研修施設に属することを認識してください (テキストエリア) (回答数: 163件)	
Q21 属することを認識してはいない (テキストエリア) (回答数: 162件)	

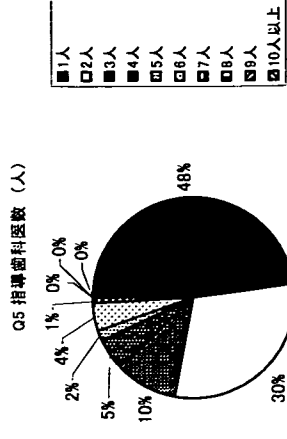
Q4 研修歯科医の受け入れ期間を回答ください (人)

1ヶ月	0人
2ヶ月	0人
3ヶ月	26人
4ヶ月	158人
5ヶ月	26人
6ヶ月	219人
7ヶ月	7人
8ヶ月	43人
9ヶ月	11人
10ヶ月	0人
11ヶ月	0人
12ヶ月以上	269人
回答数	799人



Q5 指導歯科医総数を回答ください (人)

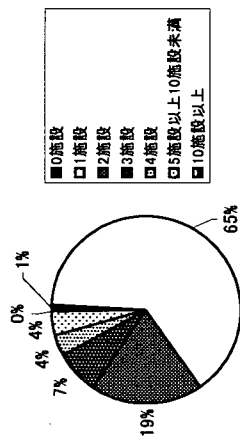
1人	117施設
2人	74施設
3人	25施設
4人	12施設
5人	4施設
6人	11施設
7人	2施設
8人	0施設
9人	0施設
10人以上	0施設
回答数	245施設



Q6 貴施設が指定を受けている管理型臨床研修施設総数を回答ください (施設)

0施設	2施設
1施設	158施設
2施設	47施設
3施設	18施設
4施設	9施設
5施設以上10施設未満	10施設
10施設以上	1施設
回答数	245施設

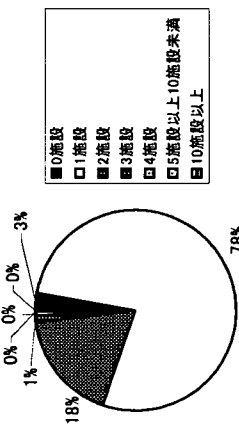
Q6 貴施設が指定を受けている管理型臨床研修施設総数 (人)



Q6-1 Q6のうち平成19年度に貴施設に研修歯科医を派遣した管理型臨床研修施設数 (施設)

0施設	7施設
1施設	190施設
2施設	43施設
3施設	3施設
4施設	1施設
5施設以上10施設未満	1施設
10施設以上	0施設
回答数	245施設

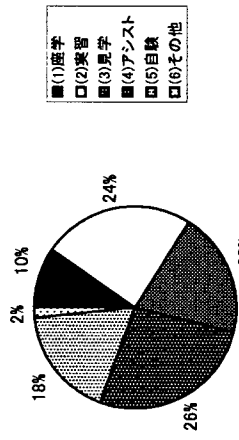
Q6-1 平成19年度に貴施設に研修歯科医を派遣した管理型臨床研修施設数 (施設)



Q7 貴施設のすべての研修内容を100%として、各研修内容の時間ベース%を回答ください (全体平均)

(1)座学	9.7%
(2)実習	24.2%
(3)見学	20.1%
(4)アシスト	26.6%
(5)自験	17.7%
(6)その他	1.7%
100	

Q7 研修内容の割合 (全体平均)

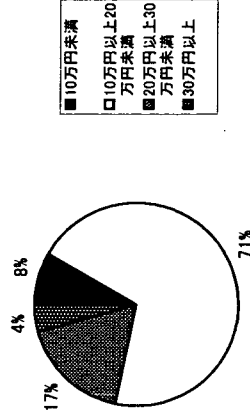


注: 全体で100%となっていないデータは集計対象外とした。

Q11-1 研修歯科医の処遇について回答ください (在籍型出向で受け入れている場合は、わかる範囲で回答ください)

10万円未満	19施設
10万円以上20万円未満	159施設
20万円以上30万円未満	39施設
30万円以上	10施設
回答数	227施設

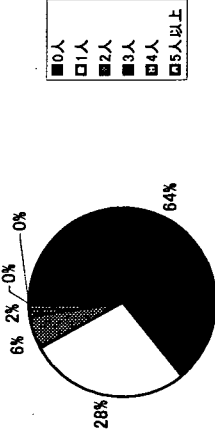
Q11-1 研修歯科医の処遇について (給与)



Q12-1 研修歯科医の進路について回答ください 貴施設に残る研修歯科医数 (人)

0人	157施設
1人	68施設
2人	14施設
3人	5施設
4人	0施設
5人以上	1施設
回答数	245施設

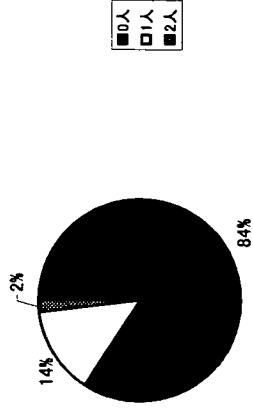
Q12-1 研修歯科医の進路 (貴施設に残る研修歯科医数の割合)



Q12-2 研修歯科医の進路について回答ください 貴施設と関連した施設 (管理型臨床研修施設を除く)に残る研修歯科医数 (人)

0人	206施設
1人	34施設
2人	5施設
回答数	245施設

Q12-2 研修歯科医の進路 (貴施設と関連した管理型臨床研修施設を除く施設に残る研修歯科医数の割合)



厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学医療安全・医療技術評価総合研究事業）
分担研究報告書

「研修歯科医のメンタルヘルス調査に関する研究」

分担研究者 秋山仁志（日本歯科大学附属病院准教授）

研究要旨：平成 18 年度に必修化された歯科医師臨床研修により、歯科診療に従事しようとする歯科医師は 1 年間以上の歯科医師臨床研修を行うことが義務付けられた。歯科医師臨床研修制度の見直しのための基礎的資料を得るために、研修歯科医のメンタルヘルスを経年的に検討することを目的とし、必修化 2 年目における研修歯科医のメンタルヘルスを把握するためにアンケート調査を行った。第 1 回目のアンケート調査の回答者数は 732 名であり、簡易職業性ストレス評価票の分析の結果、研修歯科医全体でみた健康リスクは 105.1 であった。第 2 回目のアンケート調査の回答者数は 347 名であり、簡易職業性ストレス評価票の分析の結果、研修歯科医全体でみた健康リスクは 97.9 であった。これらのことから、平成 19 年度の研修歯科医は、健康問題が起きるリスクが全国一般の標準的な集団の健康リスク 100 と比較してほとんど変わらない傾向があることが認められた。また、抑うつ状態自己評価尺度（CES-D）でみた結果、第 1 回目、第 2 回目のアンケート調査から研修歯科医の半数が「抑うつ状態」である可能性があることが示唆された。

A. 研究目的

平成 18 年 4 月より歯科医師臨床研修制度が必修化され、歯科診療に従事しようとする歯科医師は 1 年間以上の歯科医師臨床研修を行うことが義務付けられた。歯科医師臨床研修は、患者中心の全人的医療を理解した上で、歯科医師としての人格を涵養し、総合的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけ、臨床研修を生涯研修の第一歩とすることのできるものでなければならず¹⁾、研修歯科医が精神的、経済的に安定して研修に専念できるような研修体制を整備することは、研修歯科医の資質の向上を努めるためにも必要であり、また研修歯科医の職場における健康管理上、重要な問題である。さらに臨床研修の中断及び休止例等の理由の 1 つに研修歯科医の精神的要因が認められていることから、研修歯科医のメンタルヘルスを把握することは重要である。

平成 18 年度必修化初年度において、厚生労働科学特別研究事業の一環として「研修歯科医のメンタルヘルス調査に関する研究」を実施し、研修歯科医 638 名からメンタルヘルスに関する貴重な資料を得ることができた²⁾。新歯科医師臨床研修制

度は、「厚生労働大臣は、省令の施行後 5 年以内（平成 22 年まで）に、省令の規定について所要の検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする」とされており¹⁾、歯科医師臨床研修制度の見直しのための基礎的資料を得るために、現在行われている歯科医師臨床研修に携わる全研修歯科医を対象としたアンケート調査を行い、データの収集、分析が必要である。

今回、歯科医師の資質向上に対する効果や歯科医療現場への影響について調査し、新制度の有効性、効率性を評価するとともに、研修歯科医のメンタルヘルスに関する調査を継続的に行うことで、研修歯科医のメンタルヘルスを経年的に検討するために、必修化 2 年目における研修歯科医のメンタルヘルスの把握について調査を行った。

B. 研究方法

1. 対象

平成 19 年度に新歯科医師臨床研修制度で歯科医師臨床研修を行っているすべての研修歯科医（2361 名）を対象とした。

2. アンケート調査期間とアンケート方法

平成19年度は、研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケートを研修中期と研修後期に2回実施した。

第1回目の調査期間は、平成19年11月26日から平成19年12月28日までとし、第2回目の調査期間は、平成20年2月12日から平成20年3月3日までとした。

研修歯科医対象のアンケート調査は、厚生労働省が運営する歯科医師臨床研修プログラム検索サイトD-REIS (<http://www.d-reis.org>) からリンクを張った「新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」のホームページ上で回答ができるように整備した。研修歯科医へのアンケート回答依頼方法は、調査研修班の主任研究者から各単独型臨床研修施設、管理型臨床研修施設にメールにて、臨床研修を行っている研修歯科医にWEB上でアンケートに回答を行うように依頼文を添付し、周知徹底を行った。

アンケートに回答する研修歯科医は、本研究班ホームページ <http://www.drmp.jp/kenkyuhan> にアクセス後、アンケートリスト中の「研修歯科医の方」をクリックし、所属の研修施設にあらかじめ配布したログインID、パスワードを入力の上、研修歯科医向けアンケートのページへと進む。研修歯科医向けアンケートページ中に「研修歯科医のメンタルヘルスに関する調査」があり、アンケート開始をクリックし、設問に回答する。すべての回答の終了後、最後に送信ボタンを押し、確認のページに進み、確認のページの最下部の送信ボタンを押して終了とする。

メンタルヘルスに関するアンケート調査は、本研究班ホームページ上に実施責任者および実施者と実施目的を明示した。また、ログイン時にのみ部外者の侵入を防止するために、ログインID、パスワードを必要としたが、アンケートに対する回答に関しては、研修歯科医の自由意志で行い、強制力がないものとした。さらに研修歯科医に不利益をもたらさないように、個人の識別を不可能とし、プライバシーの保護に関しては十分に配慮した。

3. ストレス調査項目

アンケート調査項目数は、すべての設問に回答するのに5～10分程度の時間で終わることができるように設定した。第1回目の調査項目は、性別についての1項目、研修施設の種別についての1項目、協力型施設数についての1項目、住居環境についての1項目、ストレス要因の認知として、簡易職業性ストレス評価票³⁾の57項目、ストレス反応としての抑うつ状態の評価に抑うつ状態自己評価尺度(CES-D) (The Center For Epidemiologic Studies-Depression、株式会社千葉テストセンター)⁴⁾の20項目の合計81項目とした。第2回目の調査項目は、性別についての1項目、研修施設の種別についての1項目、協力型施設数についての1項目、研修終了後の今後の予定についての1項目、ストレス要因の認知として、簡易職業性ストレス評価票³⁾の57項目、ストレス反応としての抑うつ状態の評価に抑うつ状態自己評価尺度(CES-D) (The Center For Epidemiologic Studies-Depression、株式会社千葉テストセンター)⁴⁾の20項目の合計81項目とした。

研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケートで使用した第1回目の調査票を表1、第2回目の調査票を表2に示す。

4. 倫理面への配慮

本研究は、東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の審査の結果、承認を得て施行した。

5. 分析方法

職業性ストレス簡易調査票³⁾の各調査項目は、臨床研修施設の種別ごとに、各尺度に該当する項目の点数を算出し、その点数を5段階に換算して評価する標準化得点を用いた方法を用いて分析した。さらに仕事のストレス判定図として、仕事の量的負担と仕事のコントロールをストレス要因として、それらから算出されたストレス度を健康リスクとしてプロットして表現した「量-コントロール判定図」、同僚の支援と上司の支援から作成する「職場の支援判定図」を作成し、量-コントロールリスク、職場の支援リスク、総合した健康リスクを算出した。抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)

⁴⁾は、スクリーニングテストの1つであり、幼児から成人とその適用範囲は広く、実施判定が簡便である。抑うつ気分、不眠、食欲低下などのうつ病の主要症状が含まれた20項目の設問から構成され、設問の4, 8, 12, 16項目は逆転項目として組み込まれており、4段階評価で0~3点に換算して集計する⁵⁾。抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ のCut-off point (区分点) は、16点であり、16点以上を「抑うつ状態」とし、「抑うつ状態」の割合を調べた。

C. 研究結果

1. 第1回研修歯科医アンケート調査結果

研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケートの総回答者数は、732名であり、平成19年度に臨床研修を行っている研修歯科医の31.0%から回答を得た。

1) 性別でみた割合

性別でみた割合は、男性430名(58.7%)、女性302名(41.3%)であった。

2) 研修施設の種別でみた割合

研修施設の種別でみた割合は、大学病院(管理型)+診療所(協力型)が258名(35.2%)、歯科大学病院(単独型)が236名(32.2%)、病院口腔外科(単独型)が95名(13.0%)、大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)が76名(10.4%)、一般病院歯科(単独型)が31名(4.2%)、一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)が7名(1.0%)、病院口腔外科(管理型)+診療所(協力型)が14名(1.9%)、診療所(管理型)+診療所(協力型)が6名(0.8%)、その他が9名(1.2%)であった。

3) 研修済(または予定)の協力型施設数でみた割合

単独型が363名(49.6%)、1施設が289名(39.5%)、2施設が65名(8.9%)、3施設以上が15名(2.0%)であった。

4) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「仕事について」の項目でみた割合

(1)「非常にたくさんのごことをしなければならない」への回答

「そうだ」が151名(20.6%)、「まあそうだ」が320名(43.7%)、「ややちがう」が215名(29.4%)、「ちがう」が46名(6.3%)であった。

(2)「時間内に仕事を処理しきれない」への回答

「そうだ」が191名(26.1%)、「まあそうだ」が235名(32.1%)、「ややちがう」が210名(28.7%)、「ちがう」が96名(13.1%)であった。

(3)「一生懸命働かなければならない」への回答

「そうだ」が342名(46.7%)、「まあそうだ」が289名(39.5%)、「ややちがう」が80名(10.9%)、「ちがう」が21名(2.9%)であった。

(4)「かなり注意を集中する必要がある」への回答

「そうだ」が338名(46.2%)、「まあそうだ」が318名(43.4%)、「ややちがう」が57名(7.8%)、「ちがう」が19名(2.6%)であった。

(5)「高度の知識や技術が必要なむずかしい仕事だ」への回答

「そうだ」が249名(34.0%)、「まあそうだ」が317名(43.3%)、「ややちがう」が132名(18.0%)、「ちがう」が34名(4.6%)であった。

(6)「勤務時間中はいつも仕事のことを考えていなければならない」への回答

「そうだ」が235名(32.1%)、「まあそうだ」が272名(37.2%)、「ややちがう」が184名(25.1%)、「ちがう」が41名(5.6%)であった。

(7)「からだを大変よく使う仕事だ」への回答

「そうだ」が230名(31.4%)、「まあそうだ」が284名(38.8%)、「ややちがう」が180名(24.6%)、「ちがう」が38名(5.2%)であった。

(8)「自分のペースで仕事ができる」への回答

「そうだ」が62名(8.5%)、「まあそうだ」が216名(29.5%)、「ややちがう」が285名(38.9%)、「ちがう」が169名(23.1%)であった。

(9)「自分で仕事の順番・やり方を決めることができる」への回答

「そうだ」が57名(7.8%)、「まあそうだ」が224名(30.6%)、「ややちがう」が263名(35.9%)、「ちがう」が188名(25.7%)であった。

(10)「職場の仕事の方針に自分の意見を反映でき

る」への回答

「そうだ」が47名(6.4%)、「まあそうだ」が240名(32.8%)、「ややちがう」が238名(32.5%)、「ちがう」が207名(28.3%)であった。

(11)「自分の技術や知識を仕事で使うことが少ない」への回答

「そうだ」が61名(8.3%)、「まあそうだ」が159名(21.7%)、「ややちがう」が326名(44.5%)、「ちがう」が186名(25.4%)であった。

(12)「私の部署内で意見の食い違いがある」への回答

「そうだ」が117名(16.0%)、「まあそうだ」が225名(30.7%)、「ややちがう」が276名(37.7%)、「ちがう」が114名(15.6%)であった。

(13)「私の部署と他の部署とはうまが合わない」への回答

「そうだ」が55名(7.5%)、「まあそうだ」が148名(20.2%)、「ややちがう」が337名(46.0%)、「ちがう」が192名(26.2%)であった。

(14)「私の職場の雰囲気は友好的である」への回答

「そうだ」が232名(31.7%)、「まあそうだ」が341名(46.6%)、「ややちがう」が98名(13.4%)、「ちがう」が61名(8.3%)であった。

(15)「私の職場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)はよくない」への回答

「そうだ」が60名(8.2%)、「まあそうだ」が130名(17.8%)、「ややちがう」が312名(42.6%)、「ちがう」が230名(31.4%)であった。

(16)「仕事の内容は自分にあっている」への回答

「そうだ」が97名(13.3%)、「まあそうだ」が409名(55.9%)、「ややちがう」が165名(22.5%)、「ちがう」が61名(8.3%)であった。

(17)「働きがいのある仕事だ」への回答

「そうだ」が219名(29.9%)、「まあそうだ」が364名(49.7%)、「ややちがう」が102名(13.9%)、「ちがう」が47名(6.4%)であった。

5) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「最近1カ月間のあなたの状態について」の項目でみた割合

(1)「活気がわいてくる」への回答

「ほとんどなかった」が120名(16.4%)、「ときどきあった」が311名(42.5%)、「しばしばあった」が226名(30.9%)、「ほとんどいつもあった」が75名(10.2%)であった。

(2)「元気がいっぱい」への回答

「ほとんどなかった」が153名(20.9%)、「ときどきあった」が301名(41.1%)、「しばしばあった」が196名(26.8%)、「ほとんどいつもあった」が82名(11.2%)であった。

(3)「生き生きする」への回答

「ほとんどなかった」が147名(20.1%)、「ときどきあった」が305名(41.7%)、「しばしばあった」が196名(26.8%)、「ほとんどいつもあった」が84名(11.5%)であった。

(4)「怒りを感じる」への回答

「ほとんどなかった」が215名(29.4%)、「ときどきあった」が287名(39.2%)、「しばしばあった」が166名(22.7%)、「ほとんどいつもあった」が64名(8.7%)であった。

(5)「内心腹立たい」への回答

「ほとんどなかった」が249名(34.0%)、「ときどきあった」が259名(35.4%)、「しばしばあった」が151名(20.6%)、「ほとんどいつもあった」が73名(10.0%)であった。

(6)「イライラしている」への回答

「ほとんどなかった」が200名(27.3%)、「ときどきあった」が307名(41.9%)、「しばしばあった」が150名(20.5%)、「ほとんどいつもあった」が75名(10.2%)であった。

(7)「ひどく疲れた」への回答

「ほとんどなかった」が80名(10.9%)、「ときどきあった」が264名(36.1%)、「しばしばあった」が214名(29.2%)、「ほとんどいつもあった」が174名(23.8%)であった。

(8)「へとへとだ」への回答

「ほとんどなかった」が162名(22.1%)、「ときどきあった」が237名(32.4%)、「しばしばあった」が189名(25.8%)、「ほとんどいつもあった」が144名(19.7%)であった。

(9)「だるい」への回答

「ほとんどなかった」が145名(19.8%)、「ときどきあった」が265名(36.2%)、「しばしばあ

った」が192名(26.2%)、「ほとんどいつもあった」が130名(17.8%)であった。

(10)「気がはりつめている」への回答

「ほとんどなかった」が99名(13.5%)、「ときどきあった」が260名(35.5%)、「しばしばあった」が205名(28.0%)、「ほとんどいつもあった」が168名(23.0%)であった。

(11)「不安だ」への回答

「ほとんどなかった」が125名(17.1%)、「ときどきあった」が282名(38.5%)、「しばしばあった」が191名(26.1%)、「ほとんどいつもあった」が134名(18.3%)であった。

(12)「落ち着きがない」への回答

「ほとんどなかった」が241名(32.9%)、「ときどきあった」が261名(35.7%)、「しばしばあった」が149名(20.4%)、「ほとんどいつもあった」が81名(11.1%)であった。

(13)「ゆううつだ」への回答

「ほとんどなかった」が191名(26.1%)、「ときどきあった」が267名(36.5%)、「しばしばあった」が159名(21.7%)、「ほとんどいつもあった」が115名(15.7%)であった。

(14)「何をするのも面倒だ」への回答

「ほとんどなかった」が314名(42.9%)、「ときどきあった」が243名(33.2%)、「しばしばあった」が111名(15.2%)、「ほとんどいつもあった」が64名(8.7%)であった。

(15)「物事に集中できない」への回答

「ほとんどなかった」が336名(45.9%)、「ときどきあった」が267名(36.5%)、「しばしばあった」が78名(10.7%)、「ほとんどいつもあった」が51名(7.0%)であった。

(16)「気分が晴れない」への回答

「ほとんどなかった」が208名(28.4%)、「ときどきあった」が286名(39.1%)、「しばしばあった」が136名(18.6%)、「ほとんどいつもあった」が102名(13.9%)であった。

(17)「仕事を手につかない」への回答

「ほとんどなかった」が448名(61.2%)、「ときどきあった」が194名(26.5%)、「しばしばあった」が56名(7.7%)、「ほとんどいつもあった」が34名(4.6%)であった。

(18)「悲しいと感じる」への回答

「ほとんどなかった」が363名(49.6%)、「ときどきあった」が205名(28.0%)、「しばしばあった」が92名(12.6%)、「ほとんどいつもあった」が72名(9.8%)であった。

(19)「めまいがする」への回答

「ほとんどなかった」が501名(68.4%)、「ときどきあった」が150名(20.5%)、「しばしばあった」が45名(6.1%)、「ほとんどいつもあった」が36名(4.9%)であった。

(20)「体のふしづしが痛む」への回答

「ほとんどなかった」が470名(64.2%)、「ときどきあった」が149名(20.4%)、「しばしばあった」が70名(9.6%)、「ほとんどいつもあった」が43名(5.9%)であった。

(21)「頭が重かったり頭痛がする」への回答

「ほとんどなかった」が377名(51.5%)、「ときどきあった」が210名(28.7%)、「しばしばあった」が104名(14.2%)、「ほとんどいつもあった」が41名(5.6%)であった。

(22)「首筋や肩がこる」への回答

「ほとんどなかった」が176名(24.0%)、「ときどきあった」が211名(28.8%)、「しばしばあった」が192名(26.2%)、「ほとんどいつもあった」が153名(20.9%)であった。

(23)「腰が痛い」への回答

「ほとんどなかった」が257名(35.1%)、「ときどきあった」が209名(28.6%)、「しばしばあった」が160名(21.9%)、「ほとんどいつもあった」が106名(14.5%)であった。

(24)「目が疲れる」への回答

「ほとんどなかった」が131名(17.9%)、「ときどきあった」が228名(31.1%)、「しばしばあった」が220名(30.1%)、「ほとんどいつもあった」が153名(20.9%)であった。

(25)「動悸や息切れがする」への回答

「ほとんどなかった」が539名(73.6%)、「ときどきあった」が117名(16.0%)、「しばしばあった」が53名(7.2%)、「ほとんどいつもあった」が23名(3.1%)であった。

(26)「胃腸の具合が悪い」への回答

「ほとんどなかった」が382名(52.2%)、「と

きどきあった」が195名(26.6%)、「しばしばあった」が96名(13.1%)、「ほとんどいつもあった」が59名(8.1%)であった。

(27) 「食欲がない」への回答

「ほとんどなかった」が500名(68.3%)、「ときどきあった」が153名(20.9%)、「しばしばあった」が49名(6.7%)、「ほとんどいつもあった」が30名(4.1%)であった。

(28) 「便秘や下痢をする」への回答

「ほとんどなかった」が385名(52.6%)、「ときどきあった」が192名(26.2%)、「しばしばあった」が95名(13.0%)、「ほとんどいつもあった」が60名(8.2%)であった。

(29) 「よく眠れない」への回答

「ほとんどなかった」が453名(61.9%)、「ときどきあった」が158名(21.6%)、「しばしばあった」が70名(9.6%)、「ほとんどいつもあった」が51名(7.0%)であった。

6) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「あなたの周りの方々について」の項目でみた割合

(1) 「次の人たちにはどのくらい気軽に話ができますか」への回答

a. 上司

「非常に」が104名(14.2%)、「かなり」が179名(24.5%)、「多少」が351名(48.0%)、「全くない」が98名(13.4%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が267名(36.5%)、「かなり」が270名(36.9%)、「多少」が163名(22.3%)、「全くない」が32名(4.4%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が420名(57.4%)、「かなり」が204名(27.9%)、「多少」が90名(12.3%)、「全くない」が18名(2.5%)であった。

(2) 「あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか」への回答

a. 上司

「非常に」が191名(26.1%)、「かなり」が242名(33.1%)、「多少」が220名(30.1%)、「全くない」が79名(10.8%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が190名(26.0%)、「かなり」が281名(38.4%)、「多少」が205名(28.0%)、「全くない」が56名(7.7%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が304名(41.5%)、「かなり」が249名(34.0%)、「多少」が154名(21.0%)、「全くない」が25名(3.4%)であった。

(3) 「あなたが個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか」への回答

a. 上司

「非常に」が126名(17.2%)、「かなり」が237名(32.4%)、「多少」が267名(36.5%)、「全くない」が102名(13.9%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が175名(23.9%)、「かなり」が293名(40.0%)、「多少」が200名(27.3%)、「全くない」が64名(8.7%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が376名(51.4%)、「かなり」が257名(35.1%)、「多少」が87名(11.9%)、「全くない」が12名(1.6%)であった。

7) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「満足度について」の項目でみた割合

(1) 「仕事に満足だ」への回答

「満足」が136名(18.6%)、「まあ満足」が361名(49.3%)、「やや不満足」が138名(18.9%)、「不満足」が97名(13.3%)であった。

(2) 「家庭生活に満足だ」への回答

「満足」が209名(28.6%)、「まあ満足」が357名(48.8%)、「やや不満足」が115名(15.7%)、「不満足」が51名(7.0%)であった。

8) 住居環境でみた割合

「自宅(一人暮らし)からの通勤」が345名(47.1%)、「自宅(家族と同居)からの通勤」が289名(39.5%)、「研修施設が用意した宿舎からの通勤」が78名(10.7%)、「その他」が20名(2.7%)であった。

9) 抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾の項目でみた割合

(1)「普段ではなんでもないことがわずらわしかった」への回答

「ない」が360名(49.2%)、「週に1~2日」が258名(35.2%)、「週に3~4日」が69名(9.4%)、「週に5日以上」45名(6.1%)であった。

(2)「食べたくなかった・食欲がなかった」への回答

「ない」が517名(70.6%)、「週に1~2日」が156名(21.3%)、「週に3~4日」が38名(5.2%)、「週に5日以上」が21名(2.9%)であった。

(3)「たとえ家族や友人が助けてくれたとしても、ゆううつな気分は晴れないと感じた」への回答

「ない」が411名(56.1%)、「週に1~2日」が207名(28.3%)、「週に3~4日」が70名(9.6%)、「週に5日以上」が44名(6.0%)であった。

(4)「自分は、他の人と同じくらいに価値があると感じた」への回答

「ない」が331名(45.2%)、「週に1~2日」が205名(28.0%)、「週に3~4日」が108名(14.8%)、「週に5日以上」が88名(12.0%)であった。

(5)「ものごとに集中できなかった」への回答

「ない」が381名(52.0%)、「週に1~2日」が253名(34.6%)、「週に3~4日」が66名(9.0%)、「週に5日以上」が32名(4.4%)であった。

(6)「気分が落ち込んでいると感じた」への回答

「ない」が227名(31.0%)、「週に1~2日」が284名(38.8%)、「週に3~4日」が135名(18.4%)、「週に5日以上」が86名(11.7%)であった。

(7)「やることすべてに骨が折れると感じた」への回答

「ない」が381名(52.0%)、「週に1~2日」が206名(28.1%)、「週に3~4日」が80名(10.9%)、「週に5日以上」が65名(8.9%)であった。

(8)「将来に希望があると感じた」への回答

「ない」が252名(34.4%)、「週に1~2日」が304名(41.5%)、「週に3~4日」が109名(14.9%)、「週に5日以上」が67名(9.2%)であった。

(9)「これまでの人生は失敗だったと感じた」への回答

「ない」が455名(62.2%)、「週に1~2日」が179名(24.5%)、「週に3~4日」が43名(5.9%)、「週に5日以上」が55名(7.5%)であった。

(10)「何かにびくびくすることがあった」への回答

「ない」が281名(38.4%)、「週に1~2日」が252名(34.4%)、「週に3~4日」が111名(15.2%)、「週に5日以上」が88名(12.0%)であった。

(11)「落ちつかず、眠れなかった」への回答

「ない」が497名(67.9%)、「週に1~2日」が154名(21.0%)、「週に3~4日」が49名(6.7%)、「週に5日以上」が32名(4.4%)であった。

(12)「幸せな気分だった」への回答

「ない」が199名(27.2%)、「週に1~2日」が342名(46.7%)、「週に3~4日」が125名(17.1%)、「週に5日以上」が66名(9.0%)であった。

(13)「普段より口数が少なかった」への回答

「ない」が315名(43.0%)、「週に1~2日」が270名(36.9%)、「週に3~4日」が91名(12.4%)、「週に5日以上」が56名(7.7%)であった。

(14)「ひとりぼっちだと感じた」への回答

「ない」が395名(54.0%)、「週に1~2日」が198名(27.0%)、「週に3~4日」が71名(9.7%)、「週に5日以上」が68名(9.3%)であった。

(15)「人々がよそよそしいと感じた」への回答

「ない」が413名(56.4%)、「週に1~2日」が193名(26.4%)、「週に3~4日」が69名(9.4%)、「週に5日以上」が57名(7.8%)であった。

(16)「人生を楽しんだ」への回答

「ない」が234名(32.0%)、「週に1~2日」が299名(40.8%)、「週に3~4日」が106名(14.5%)、「週に5日以上」が93名(12.7%)であった。

(17)「涙ぐむことがあった」への回答

「ない」が411名(56.1%)、「週に1~2日」が250名(34.2%)、「週に3~4日」が43名(5.9%)、「週に5日以上」が28名(3.8%)であった。

(18)「悲しい気分だった」への回答

「ない」が349名(47.7%)、「週に1~2日」が258名(35.2%)、「週に3~4日」が76名(10.4%)、「週に5日以上」が49名(6.7%)であった。

(19)「まわりの人が自分を嫌っていると感じた」への回答

「ない」が453名(61.9%)、「週に1~2日」が182名(24.9%)、「週に3~4日」が57名(7.8%)、「週に5日以上」が40名(5.5%)であった。

(20)「ものごとに手がつかないと感じた」への回答

「ない」が438名(59.8%)、「週に1~2日」が199名(27.2%)、「週に3~4日」が51名(7.0%)、「週に5日以上」が44名(6.0%)であった。

2. 第1回研修歯科医アンケート分析結果

1) 職業性ストレス簡易調査票³⁾の分析による研修施設の種別でみた結果

(1) 歯科大学病院(単独型)

仕事の量的負担の平均は8.2、仕事のコントロールの平均は7.4、上司の支援の平均は7.9、同僚の支援の平均は9.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは100、職場の支援リスクは86、総合した健康リスクは86.0であった。

(2) 一般病院歯科(単独型)

仕事の量的負担の平均は8.7、仕事のコントロールの平均は7.0、上司の支援の平均は8.5、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは108、職場の支援リスクは85、総合した健康リスクは91.4であった。

(3) 病院口腔外科(単独型)

仕事の量的負担の平均は9.8、仕事のコントロールの平均は6.0、上司の支援の平均は7.9、同僚の支援の平均は8.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは128、職場の支援リスクは92、総合した健康リスクは117.4であった。

(4) 大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)

仕事の量的負担の平均は9.1、仕事のコントロールの平均は6.7、上司の支援の平均は7.5、同僚の支援の平均は8.8、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは115、職場の支援リスクは93、総合した健康リスクは106.4であった。

(5) 大学病院(管理型)+診療所(協力型)

仕事の量的負担の平均は8.8、仕事のコントロールの平均は6.0、上司の支援の平均は7.3、同僚の支援の平均は8.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは119、職場の支

援リスクは101、総合した健康リスクは120.2であった。

(6) 一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)
仕事の量的負担の平均は8.9、仕事のコントロールの平均は7.4、上司の支援の平均は9.3、同僚の支援の平均は9.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは105、職場の支援リスクは71、総合した健康リスクは74.4であった。

(7) 診療所(管理型)+診療所(協力型)

仕事の量的負担の平均は10.2、仕事のコントロールの平均は5.5、上司の支援の平均は6.0、同僚の支援の平均は7.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは138、職場の支援リスクは124、総合した健康リスクは171.1であった。

(8) 病院口腔外科(管理型)+診療所(協力型)

仕事の量的負担の平均は9.9、仕事のコントロールの平均は6.9、上司の支援の平均は8.1、同僚の支援の平均は8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは119、職場の支援リスクは91、総合した健康リスクは108.3であった。

(9) その他

仕事の量的負担の平均は9.1、仕事のコントロールの平均は6.8、上司の支援の平均は8.4、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは113、職場の支援リスクは86、総合した健康リスクは97.2であった。

(10) 全体

仕事の量的負担の平均は8.8、仕事のコントロールの平均は6.6、上司の支援の平均は7.7、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは113、職場の支援リスクは93、総合した健康リスクは105.1であった。

2) 職業性ストレス簡易調査票³⁾の分析による研修施設数ごとでみた結果

(1) 単独型

仕事の量的負担の平均は8.7、仕事のコントロー

ルの平均は6.9、上司の支援の平均は8.0、同僚の支援の平均は9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは109、職場の支援リスクは88、総合した健康リスクは95.4であった。

(2) 協力型施設1施設

仕事の量的負担の平均は8.9、仕事のコントロールの平均は6.2、上司の支援の平均は7.3、同僚の支援の平均は8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは118、職場の支援リスクは98、総合した健康リスクは115.4であった。

(3) 協力型施設2施設

仕事の量的負担の平均は8.8、仕事のコントロールの平均は6.8、上司の支援の平均は7.5、同僚の支援の平均は8.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは110、職場の支援リスクは99、総合した健康リスクは108.3であった。

(4) 協力型施設3施設以上

仕事の量的負担の平均は9.0、仕事のコントロールの平均は7.1、上司の支援の平均は8.1、同僚の支援の平均は9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは110、職場の支援リスクは86、総合した健康リスクは94.4であった。

3) 職業性ストレス簡易調査票³⁾の分析による住居環境でみた結果

(1) 自宅(一人暮らし)からの通勤

仕事の量的負担の平均は8.7、仕事のコントロールの平均は6.8、上司の支援の平均は7.7、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは110、職場の支援リスクは92、総合した健康リスクは101.2であった。

(2) 自宅(家族と同居)からの通勤

仕事の量的負担の平均は8.9、仕事のコントロールの平均は6.5、上司の支援の平均は7.5、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは114、職場の支援リスクは94、総合した健康リスクは107.2で

あった。

(3) 研修施設が用意した宿舎からの通勤

仕事の量的負担の平均は9.1、仕事のコントロールの平均は6.4、上司の支援の平均は8.3、同僚の支援の平均は8.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは117、職場の支援リスクは87、総合した健康リスクは101.4であった。

(4) その他

仕事の量的負担の平均は9.4、仕事のコントロールの平均は6.2、上司の支援の平均は7.3、同僚の支援の平均は7.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは122、職場の支援リスクは109、総合した健康リスクは132.4であった。

4) 抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾でみた研修施設種別ごとの結果

(1) 歯科大学病院(単独型)

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾でみた結果、研修歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が17.8点(標準偏差11.4点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の研修歯科医は、236名中107名であった。

(2) 一般病院歯科(単独型)

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾でみた結果、研修歯科医の最低点が0点、最高点が54点であり、平均点が18.7点(標準偏差13.8点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の研修歯科医は、31名中18名であった。

(3) 病院口腔外科(単独型)

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾でみた結果、研修歯科医の最低点が2点、最高点が51点であり、平均点が21.5点(標準偏差11.2点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の研修歯科医は、95名中62名であった。

(4) 大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)

抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾でみた結果、研修歯科医の最低点が1点、最高点が50点であり、平均点が18.1点(標準偏差11.5点)であった。また、Cut-off point(区分点)の16点以上の点数の研修歯科医は、76名中39名であった。

(5) 大学病院 (管理型) + 診療所 (協力型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が1点、最高点が60点であり、平均点が19.7点 (標準偏差12.3点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の研修歯科医は、258名中138名であった。

(6) 一般病院歯科 (管理型) + 診療所 (協力型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が8点、最高点が23点であり、平均点が14.3点 (標準偏差5.5点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の研修歯科医は、7名中3名であった。

(7) 診療所 (管理型) + 診療所 (協力型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が9点、最高点が39点であり、平均点が25.7点 (標準偏差12.6点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の研修歯科医は、6名中4名であった。

(8) 病院口腔外科 (管理型) + 診療所 (協力型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が5点、最高点が41点であり、平均点が19.1点 (標準偏差9.8点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の研修歯科医は、14名中10名であった。

(9) その他

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が1点、最高点が46点であり、平均点が18.3点 (標準偏差13.7点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の研修歯科医は、9名中3名であった。

(10) 全体

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が19.1点 (標準偏差11.8点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の研修歯科医は、732名中384名 (52.5%) であった。

5) 抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた
住居環境でみた結果

(1) 自宅 (一人暮らし) からの通勤

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、

研修歯科医の最低点が0点、最高点が59点であり、平均点が19.3点 (標準偏差11.9点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の研修歯科医は、345名中183名であった。

(2) 自宅 (家族と同居) からの通勤

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が18.1点 (標準偏差11.4点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の研修歯科医は、289名中139名であった。

(3) 研修施設が用意した宿舎からの通勤

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が2点、最高点が54点であり、平均点が20.8点 (標準偏差11.9点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の研修歯科医は、78名中53名であった。

(4) その他

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が3点、最高点が60点であり、平均点が22.8点 (標準偏差16.4点) であった。また、Cut-off point (区分点) の16点以上の点数の研修歯科医は、20名中9名であった。

3. 第2回研修歯科医アンケート調査結果

第2回研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケートの総回答者数は、347名であり、全研修歯科医の14.7%から回答を得た。

1) 性別でみた割合

性別でみた割合は、男性201名 (57.9%)、女性146名 (42.1%) であった。

2) 研修施設の種別でみた割合

研修施設の種別でみた割合は、歯科大学病院 (単独型) が118名 (34.0%)、大学病院 (管理型) + 診療所 (協力型) が110名 (31.7%)、病院口腔外科 (単独型) が58名 (16.7%)、大学病院 (管理型) + 病院歯科 (協力型) が40名 (11.5%)、一般病院歯科 (単独型) が9名 (2.6%)、病院口腔外科 (管理型) + 診療所 (協力型) が4名 (1.2%)、その他が4名 (1.2%)、一般病院歯科 (管理型) + 診療所 (協力型) が3名 (0.9%)、診療所 (管理型) + 診

療所(協力型)が1名(0.3%)であった。

3) 研修済(または予定)の協力型施設数でみた割合

単独型が175名(50.4%)、1施設が132名(38.0%)、2施設が34名(9.8%)、3施設以上が6名(1.7%)であった。

4) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「仕事について」の項目でみた割合

(1)「非常にたくさんの方の事をしなければならない」への回答

「そうだ」が94名(27.1%)、「まあそうだ」が170名(49.0%)、「ややちがう」が68名(19.6%)、「ちがう」が15名(4.3%)であった。

(2)「時間内に仕事を処理しきれない」への回答

「そうだ」が76名(21.9%)、「まあそうだ」が150名(43.2%)、「ややちがう」が91名(26.2%)、「ちがう」が30名(8.6%)であった。

(3)「一生懸命働かなければならない」への回答

「そうだ」が126名(36.3%)、「まあそうだ」が183名(52.7%)、「ややちがう」が30名(8.6%)、「ちがう」が8名(2.3%)であった。

(4)「かなり注意を集中する必要がある」への回答

「そうだ」が140名(40.3%)、「まあそうだ」が174名(50.1%)、「ややちがう」が24名(6.9%)、「ちがう」が9名(2.6%)であった。

(5)「高度の知識や技術が必要なむずかしい仕事だ」への回答

「そうだ」が113名(32.6%)、「まあそうだ」が172名(49.6%)、「ややちがう」が51名(14.7%)、「ちがう」が11名(3.2%)であった。

(6)「勤務時間中はいつも仕事の事を考えていなければならない」への回答

「そうだ」が97名(28.0%)、「まあそうだ」が160名(46.1%)、「ややちがう」が72名(20.7%)、「ちがう」が18名(5.2%)であった。

(7)「からだを大変よく使う仕事だ」への回答

「そうだ」が95名(27.4%)、「まあそうだ」が164名(47.3%)、「ややちがう」が76名(21.9%)、「ちがう」が12名(3.5%)であった。

(8)「自分のペースで仕事ができる」への回答

「そうだ」が26名(7.5%)、「まあそうだ」が138名(39.8%)、「ややちがう」が120名(34.6%)、「ちがう」が63名(18.2%)であった。

(9)「自分で仕事の順番・やり方を決めることができる」への回答

「そうだ」が27名(7.8%)、「まあそうだ」が148名(42.7%)、「ややちがう」が110名(31.7%)、「ちがう」が62名(17.9%)であった。

(10)「職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる」への回答

「そうだ」が13名(3.7%)、「まあそうだ」が150名(43.2%)、「ややちがう」が103名(29.7%)、「ちがう」が81名(23.3%)であった。

(11)「自分の技術や知識を仕事で使うことが少ない」への回答

「そうだ」が29名(8.4%)、「まあそうだ」が88名(25.4%)、「ややちがう」が171名(49.3%)、「ちがう」が59名(17.0%)であった。

(12)「私の部署内で意見の食い違いがある」への回答

「そうだ」が46名(13.3%)、「まあそうだ」が124名(35.7%)、「ややちがう」が141名(40.6%)、「ちがう」が36名(10.4%)であった。

(13)「私の部署と他の部署とはうまく合わない」への回答

「そうだ」が33名(9.5%)、「まあそうだ」が78名(22.5%)、「ややちがう」が154名(44.4%)、「ちがう」が82名(23.6%)であった。

(14)「私の職場の雰囲気は友好的である」への回答

「そうだ」が99名(28.5%)、「まあそうだ」が181名(52.2%)、「ややちがう」が39名(11.2%)、「ちがう」が28名(8.1%)であった。

(15)「私の職場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)はよくない」への回答

「そうだ」が28名(8.1%)、「まあそうだ」が77名(22.2%)、「ややちがう」が171名(49.3%)、「ちがう」が71名(20.5%)であった。

(16)「仕事の内容は自分にあっている」への回答

「そうだ」が60名(17.3%)、「まあそうだ」が201名(57.9%)、「ややちがう」が62名(17.9%)、

「ちがう」が24名(6.9%)であった。

(17)「働きがいのある仕事だ」への回答

「そうだ」が91名(26.2%)、「まあそうだ」が198名(57.1%)、「ややちがう」が36名(10.4%)、「ちがう」が22名(6.3%)であった。

5) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「最近1カ月間のあなたの状態について」の項目でみた割合

(1)「活気がわいてくる」への回答

「ほとんどなかった」が65名(18.7%)、「ときどきあった」が154名(44.4%)、「しばしばあった」が100名(28.8%)、「ほとんどいつもあった」が28名(8.1%)であった。

(2)「元気がいっぱいだ」への回答

「ほとんどなかった」が75名(21.6%)、「ときどきあった」が134名(38.6%)、「しばしばあった」が107名(30.8%)、「ほとんどいつもあった」が31名(8.9%)であった。

(3)「生き生きする」への回答

「ほとんどなかった」が74名(21.3%)、「ときどきあった」が140名(40.3%)、「しばしばあった」が102名(29.4%)、「ほとんどいつもあった」が31名(8.9%)であった。

(4)「怒りを感じる」への回答

「ほとんどなかった」が94名(27.1%)、「ときどきあった」が151名(43.5%)、「しばしばあった」が71名(20.5%)、「ほとんどいつもあった」が31名(8.9%)であった。

(5)「内心腹立たしい」への回答

「ほとんどなかった」が108名(31.1%)、「ときどきあった」が140名(40.3%)、「しばしばあった」が63名(18.2%)、「ほとんどいつもあった」が36名(10.4%)であった。

(6)「イライラしている」への回答

「ほとんどなかった」が112名(32.3%)、「ときどきあった」が132名(38.0%)、「しばしばあった」が67名(19.3%)、「ほとんどいつもあった」が36名(10.4%)であった。

(7)「ひどく疲れた」への回答

「ほとんどなかった」が44名(12.7%)、「ときどきあった」が141名(40.6%)、「しばしばあ

った」が90名(25.9%)、「ほとんどいつもあった」が72名(20.7%)であった。

(8)「へとへとだ」への回答

「ほとんどなかった」が83名(23.9%)、「ときどきあった」が133名(38.3%)、「しばしばあった」が73名(21.0%)、「ほとんどいつもあった」が58名(16.7%)であった。

(9)「だるい」への回答

「ほとんどなかった」が74名(21.3%)、「ときどきあった」が144名(41.5%)、「しばしばあった」が66名(19.0%)、「ほとんどいつもあった」が63名(18.2%)であった。

(10)「気がはりつめている」への回答

「ほとんどなかった」が61名(17.6%)、「ときどきあった」が155名(44.7%)、「しばしばあった」が76名(21.9%)、「ほとんどいつもあった」が55名(15.9%)であった。

(11)「不安だ」への回答

「ほとんどなかった」が78名(22.5%)、「ときどきあった」が154名(44.4%)、「しばしばあった」が64名(18.4%)、「ほとんどいつもあった」が51名(14.7%)であった。

(12)「落ち着きがない」への回答

「ほとんどなかった」が120名(34.6%)、「ときどきあった」が150名(43.2%)、「しばしばあった」が48名(13.8%)、「ほとんどいつもあった」が29名(8.4%)であった。

(13)「ゆううつだ」への回答

「ほとんどなかった」が100名(28.8%)、「ときどきあった」が127名(36.6%)、「しばしばあった」が71名(20.5%)、「ほとんどいつもあった」が49名(14.1%)であった。

(14)「何をするのも面倒だ」への回答

「ほとんどなかった」が139名(40.1%)、「ときどきあった」が130名(37.5%)、「しばしばあった」が46名(13.3%)、「ほとんどいつもあった」が32名(9.2%)であった。

(15)「物事に集中できない」への回答

「ほとんどなかった」が153名(44.1%)、「ときどきあった」が143名(41.2%)、「しばしばあった」が33名(9.5%)、「ほとんどいつもあった」が18名(5.2%)であった。

(16) 「気分が晴れない」への回答

「ほとんどなかった」が103名(29.7%)、「ときどきあった」が152名(43.8%)、「しばしばあった」が46名(13.3%)、「ほとんどいつもあった」が46名(13.3%)であった。

(17) 「仕事が手につかない」への回答

「ほとんどなかった」が202名(58.2%)、「ときどきあった」が105名(30.3%)、「しばしばあった」が27名(7.8%)、「ほとんどいつもあった」が13名(3.7%)であった。

(18) 「悲しいと感じる」への回答

「ほとんどなかった」が166名(47.8%)、「ときどきあった」が110名(31.7%)、「しばしばあった」が40名(11.5%)、「ほとんどいつもあった」が31名(8.9%)であった。

(19) 「めまいがする」への回答

「ほとんどなかった」が225名(64.8%)、「ときどきあった」が81名(23.3%)、「しばしばあった」が27名(7.8%)、「ほとんどいつもあった」が14名(4.0%)であった。

(20) 「体のふしぶしが痛む」への回答

「ほとんどなかった」が209名(60.2%)、「ときどきあった」が95名(27.4%)、「しばしばあった」が25名(7.2%)、「ほとんどいつもあった」が18名(5.2%)であった。

(21) 「頭が重かったり頭痛がする」への回答

「ほとんどなかった」が153名(44.1%)、「ときどきあった」が132名(38.0%)、「しばしばあった」が42名(12.1%)、「ほとんどいつもあった」が20名(5.8%)であった。

(22) 「首筋や肩がこる」への回答

「ほとんどなかった」が82名(23.6%)、「ときどきあった」が124名(35.7%)、「しばしばあった」が67名(19.3%)、「ほとんどいつもあった」が74名(21.3%)であった。

(23) 「腰が痛い」への回答

「ほとんどなかった」が119名(34.3%)、「ときどきあった」が128名(36.9%)、「しばしばあった」が61名(17.6%)、「ほとんどいつもあった」が39名(11.2%)であった。

(24) 「目が疲れる」への回答

「ほとんどなかった」が67名(19.3%)、「とき

どきあった」が135名(38.9%)、「しばしばあった」が85名(24.5%)、「ほとんどいつもあった」が60名(17.3%)であった。

(25) 「動悸や息切れがする」への回答

「ほとんどなかった」が236名(68.0%)、「ときどきあった」が79名(22.8%)、「しばしばあった」が17名(4.9%)、「ほとんどいつもあった」が15名(4.3%)であった。

(26) 「胃腸の具合が悪い」への回答

「ほとんどなかった」が176名(50.7%)、「ときどきあった」が105名(30.3%)、「しばしばあった」が40名(11.5%)、「ほとんどいつもあった」が26名(7.5%)であった。

(27) 「食欲がない」への回答

「ほとんどなかった」が237名(68.3%)、「ときどきあった」が78名(22.5%)、「しばしばあった」が19名(5.5%)、「ほとんどいつもあった」が13名(3.7%)であった。

(28) 「便秘や下痢をする」への回答

「ほとんどなかった」が179名(51.6%)、「ときどきあった」が94名(27.1%)、「しばしばあった」が43名(12.4%)、「ほとんどいつもあった」が31名(8.9%)であった。

(29) 「よく眠れない」への回答

「ほとんどなかった」が209名(60.2%)、「ときどきあった」が90名(25.9%)、「しばしばあった」が30名(8.6%)、「ほとんどいつもあった」が18名(5.2%)であった。

6) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「あなたの周りの方々について」の項目でみた割合

(1) 「次の人たちにはどのくらい気軽に話ができますか」への回答

a. 上司

「非常に」が62名(17.9%)、「かなり」が100名(28.8%)、「多少」が157名(45.2%)、「全くない」が28名(8.1%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が131名(37.8%)、「かなり」が141名(40.6%)、「多少」が72名(20.7%)、「全くない」が3名(0.9%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が197名(56.8%)、「かなり」が102名(29.4%)、「多少」が42名(12.1%)、「全くない」が6名(1.7%)であった。

(2)「あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか」への回答

a. 上司

「非常に」が76名(21.9%)、「かなり」が125名(36.0%)、「多少」が119名(34.3%)、「全くない」が27名(7.8%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が90名(25.9%)、「かなり」が130名(37.5%)、「多少」が114名(32.9%)、「全くない」が13名(3.7%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が150名(43.2%)、「かなり」が123名(35.4%)、「多少」が66名(19.0%)、「全くない」が8名(2.3%)であった。

(3)「あなたが個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか」への回答

a. 上司

「非常に」が63名(18.2%)、「かなり」が118名(34.0%)、「多少」が133名(38.3%)、「全くない」が33名(9.5%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が86名(24.8%)、「かなり」が140名(40.3%)、「多少」が112名(32.3%)、「全くない」が9名(2.6%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が176名(50.7%)、「かなり」が125名(36.0%)、「多少」が41名(11.8%)、「全くない」が5名(1.4%)であった。

7) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「満足度について」の項目でみた割合

(1)「仕事に満足だ」への回答

「満足」が74名(21.3%)、「まあ満足」が184名(53.0%)、「やや不満足」が54名(15.6%)、「不満足」が35名(10.1%)であった。

(2)「家庭生活に満足だ」への回答

「満足」が108名(31.1%)、「まあ満足」が163名(47.0%)、「やや不満足」が53名(15.3%)、「不満足」が23名(6.6%)であった。

8) 今後の予定でみた割合

「研修した医療機関に就職」が111名(32.0%)、「別の医療機関に就職」が91名(26.2%)、「大学院へ進学」が99名(28.5%)、「その他」が46名(13.3%)であった。

9) 抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾の項目でみた割合

(1)「普段ではなんでもないことがわずらわしかった」への回答

「ない」が165名(47.6%)、「週に1~2日」が128名(36.9%)、「週に3~4日」が31名(8.9%)、「週に5日以上」23名(6.6%)であった。

(2)「食べたくなかった・食欲がなかった」への回答

「ない」が250名(72.0%)、「週に1~2日」が77名(22.2%)、「週に3~4日」が15名(4.3%)、「週に5日以上」が5名(1.4%)であった。

(3)「たとえ家族や友人が助けてくれたとしても、ゆううつな気分は晴れないと感じた」への回答

「ない」が199名(57.3%)、「週に1~2日」が92名(26.5%)、「週に3~4日」が34名(9.8%)、「週に5日以上」が22名(6.3%)であった。

(4)「自分は、他の人と同じくらいに価値があると感じた」への回答

「ない」が138名(39.8%)、「週に1~2日」が114名(32.9%)、「週に3~4日」が52名(15.0%)、「週に5日以上」が43名(12.4%)であった。

(5)「ものごとに集中できなかった」への回答

「ない」が179名(51.6%)、「週に1~2日」が131名(37.8%)、「週に3~4日」が21名(6.1%)、「週に5日以上」が16名(4.6%)であった。

(6)「気分が落ち込んでいると感じた」への回答

「ない」が121名(34.9%)、「週に1~2日」が131名(37.8%)、「週に3~4日」が55名(15.9%)、「週に5日以上」が40名(11.5%)であった。

(7)「やることすべてに骨が折れると感じた」への回答

「ない」が185名(53.3%)、「週に1~2日」が98名(28.2%)、「週に3~4日」が39名(11.2%)、「週に5日以上」が25名(7.2%)であった。

(8) 「将来に希望があると感じた」への回答

「ない」が123名(35.4%)、「週に1~2日」が123名(35.4%)、「週に3~4日」が71名(20.5%)、「週に5日以上」が30名(8.6%)であった。

(9) 「これまでの人生は失敗だったと感じた」への回答

「ない」が224名(64.6%)、「週に1~2日」が86名(24.8%)、「週に3~4日」が22名(6.3%)、「週に5日以上」が15名(4.3%)であった。

(10) 「何かにびくびくすることがあった」への回答

「ない」が155名(44.7%)、「週に1~2日」が123名(35.4%)、「週に3~4日」が38名(11.0%)、「週に5日以上」が31名(8.9%)であった。

(11) 「落ちつかず、眠れなかった」への回答

「ない」が241名(69.5%)、「週に1~2日」が73名(21.0%)、「週に3~4日」が22名(6.3%)、「週に5日以上」が11名(3.2%)であった。

(12) 「幸せな気分だった」への回答

「ない」が92名(26.5%)、「週に1~2日」が157名(45.2%)、「週に3~4日」が70名(20.2%)、「週に5日以上」が28名(8.1%)であった。

(13) 「普段より口数が少なかった」への回答

「ない」が153名(44.1%)、「週に1~2日」が132名(38.0%)、「週に3~4日」が41名(11.8%)、「週に5日以上」が21名(6.1%)であった。

(14) 「ひとりぼっちだと感じた」への回答

「ない」が193名(55.6%)、「週に1~2日」が88名(25.4%)、「週に3~4日」が42名(12.1%)、「週に5日以上」が24名(6.9%)であった。

(15) 「人々がよそよそしいと感じた」への回答

「ない」が199名(57.3%)、「週に1~2日」が99名(28.5%)、「週に3~4日」が29名(8.4%)、「週に5日以上」が20名(5.8%)であった。

(16) 「人生を楽しんだ」への回答

「ない」が99名(28.5%)、「週に1~2日」が146名(42.1%)、「週に3~4日」が59名(17.0%)、「週に5日以上」が43名(12.4%)であった。

(17) 「涙ぐむことがあった」への回答

「ない」が202名(58.2%)、「週に1~2日」が107名(30.8%)、「週に3~4日」が18名(5.2%)、「週に5日以上」が20名(5.8%)であった。

(18) 「悲しい気分だった」への回答

「ない」が170名(49.0%)、「週に1~2日」が119名(34.3%)、「週に3~4日」が30名(8.6%)、「週に5日以上」が28名(8.1%)であった。

(19) 「まわりの人が自分を嫌っていると感じた」への回答

「ない」が219名(63.1%)、「週に1~2日」が93名(26.8%)、「週に3~4日」が19名(5.5%)、「週に5日以上」が16名(4.6%)であった。

(20) 「ものごとに手がつかないと感じた」への回答

「ない」が217名(62.5%)、「週に1~2日」が91名(26.2%)、「週に3~4日」が22名(6.3%)、「週に5日以上」が17名(4.9%)であった。

4. 第2回研修歯科医アンケート分析結果

1) 職業性ストレス簡易調査票³⁾の分析による研修施設の種別でみた結果

(1) 歯科大学病院(単独型)

仕事の量的負担の平均は8.7、仕事のコントロールの平均は7.8、上司の支援の平均は7.8、同僚の支援の平均は9.1、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは100、職場の支援リスクは88、総合した健康リスクは88.0であった。

(2) 一般病院歯科(単独型)

仕事の量的負担の平均は9.3、仕事のコントロールの平均は6.7、上司の支援の平均は7.9、同僚の支援の平均は9.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは117、職場の支援リスクは85、総合した健康リスクは99.4であった。

(3) 病院口腔外科(単独型)

仕事の量的負担の平均は9.8、仕事のコントロールの平均は6.8、上司の支援の平均は7.6、同僚の支援の平均は8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは120、職場の支援リスクは96、総合した健康リスクは115.2であった。

(4) 大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)

仕事の量的負担の平均は9.6、仕事のコントロールの平均は6.6、上司の支援の平均は7.8、同僚

の支援の平均は 9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 120、職場の支援リスクは 89、総合した健康リスクは 106.4 であった。

(5) 大学病院（管理型）+診療所（協力型）

仕事の量的負担の平均は 8.7、仕事のコントロールの平均は 6.7、上司の支援の平均は 8.1、同僚の支援の平均は 8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 111、職場の支援リスクは 87、総合した健康リスクは 96.4 であった。

(6) 一般病院歯科（管理型）+診療所（協力型）

仕事の量的負担の平均は 8.0、仕事のコントロールの平均は 5.0、上司の支援の平均は 5.0、同僚の支援の平均は 6.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 122、職場の支援リスクは 151、総合した健康リスクは 184.2 であった。

(7) 診療所（管理型）+診療所（協力型）

仕事の量的負担の平均は 5.0、仕事のコントロールの平均は 7.0、上司の支援の平均は 11.0、同僚の支援の平均は 10.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 81、職場の支援リスクは 59、総合した健康リスクは 47.4 であった。

(8) 病院口腔外科（管理型）+診療所（協力型）

仕事の量的負担の平均は 9.0、仕事のコントロールの平均は 6.5、上司の支援の平均は 10.0、同僚の支援の平均は 10.5、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 115、職場の支援リスクは 62、総合した健康リスクは 71.3 であった。

(9) その他

仕事の量的負担の平均は 9.5、仕事のコントロールの平均は 6.0、上司の支援の平均は 8.8、同僚の支援の平均は 8.8、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 125、職場の支援リスクは 83、総合した健康リスクは 103.4 であった。

(10) 全体

仕事の量的負担の平均は 9.0、仕事のコントロールの平均は 7.0、上司の支援の平均は 7.9、同僚

の支援の平均は 8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 110、職場の支援リスクは 89、総合した健康リスクは 97.9 であった。

2) 職業性ストレス簡易調査票³⁾の分析による研修施設数ごとでみた結果

(1) 単独型

仕事の量的負担の平均は 9.1、仕事のコントロールの平均は 7.4、上司の支援の平均は 7.8、同僚の支援の平均は 8.8、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 108、職場の支援リスクは 90、総合した健康リスクは 97.2 であった。

(2) 協力型施設 1 施設

仕事の量的負担の平均は 8.9、仕事のコントロールの平均は 6.8、上司の支援の平均は 8.2、同僚の支援の平均は 9.1、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 111、職場の支援リスクは 84、総合した健康リスクは 93.2 であった。

(3) 協力型施設 2 施設

仕事の量的負担の平均は 9.2、仕事のコントロールの平均は 6.3、上司の支援の平均は 7.3、同僚の支援の平均は 8.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 119、職場の支援リスクは 99、総合した健康リスクは 117.4 であった。

(4) 協力型施設 3 施設以上

仕事の量的負担の平均は 8.2、仕事のコントロールの平均は 7.7、上司の支援の平均は 7.7、同僚の支援の平均は 9.8、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは 98、職場の支援リスクは 83、総合した健康リスクは 81.3 であった。

3) 抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾でみた研修施設種別ごとの結果

(1) 歯科大学病院（単独型）

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾でみた結果、研修歯科医の最低点が 0 点、最高点が 60 点であり、平均点が 18.9 点（標準偏差 12.3 点）であった。

また、Cut-off point (区分点) の 16 点以上の点数の研修歯科医は、118 名中 62 名であった。

(2) 一般病院歯科 (単独型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が 6 点、最高点が 42 点であり、平均点が 20.7 点 (標準偏差 13.1 点) であった。

また、Cut-off point (区分点) の 16 点以上の点数の研修歯科医は、9 名中 5 名であった。

(3) 病院口腔外科 (単独型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が 4 点、最高点が 39 点であり、平均点が 20.4 点 (標準偏差 8.5 点) であった。また、Cut-off point (区分点) の 16 点以上の点数の研修歯科医は、58 名中 37 名であった。

(4) 大学病院 (管理型) + 病院歯科 (協力型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が 4 点、最高点が 46 点であり、平均点が 18.4 点 (標準偏差 11.8 点) であった。また、Cut-off point (区分点) の 16 点以上の点数の研修歯科医は、40 名中 19 名であった。

(5) 大学病院 (管理型) + 診療所 (協力型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が 0 点、最高点が 53 点であり、平均点が 16.0 点 (標準偏差 10.1 点) であった。また、Cut-off point (区分点) の 16 点以上の点数の研修歯科医は、110 名中 46 名であった。

(6) 一般病院歯科 (管理型) + 診療所 (協力型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が 9 点、最高点が 57 点であり、平均点が 26.0 点 (標準偏差 26.9 点) であった。また、Cut-off point (区分点) の 16 点以上の点数の研修歯科医は、3 名中 1 名であった。

(7) 診療所 (管理型) + 診療所 (協力型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医数は 1 名であり、10 点であった。

(8) 病院口腔外科 (管理型) + 診療所 (協力型)

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が 8 点、最高点が 33 点であり、平均点が 16.0 点 (標準偏差 11.5 点) であった。また、Cut-off point (区分点) の 16 点以上の点数の研修歯科医は、4 名中 1 名であった。

(9) その他

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が 4 点、最高点が 42 点であり、平均点が 18.0 点 (標準偏差 16.7 点) であった。また、Cut-off point (区分点) の 16 点以上の点数の研修歯科医は、4 名中 2 名であった。

(10) 全体

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が 0 点、最高点が 60 点であり、平均点が 18.2 点 (標準偏差 11.3 点) であった。また、Cut-off point (区分点) の 16 点以上の点数の研修歯科医は、347 名中 173 名 (49.9%) であった。

D. 考察

1. アンケート調査について

平成 18 年度と同様に、平成 19 年度に臨床研修を開始したすべての研修歯科医を対象とした「研修歯科医のメンタルヘルスに関する調査」は時期を変えて 2 回実施した。アンケート調査に関しては、メンタルヘルスを扱うというデリケートな問題であるため、倫理的な面から、東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の承認を必要とした。

メンタルヘルスに関するアンケート調査は、5～10 分程度で回答可能で、他業種と比較検討を行うことができるように、一般的に使用されている職業性ストレス簡易調査票³⁾ 57 項目と抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ 20 項目を取り入れて実施することとした。実施責任者および実施者と実施目的を明確にし、回答者に不利益をもたらすことがないことを周知徹底した。アンケート調査の実施にあたっては、本研究班ホームページにアクセスし、回答するように配備した。ホームページにアクセスするにあたり、部外者の侵入を防止するために、ログイン ID、パスワードを必要としたが、実際のアンケートに対する回答に関しては、個人が識別できないようにプライバシーの保護に関しては十分に配慮した。なお、回答にあたっては研修歯科医の自由意志で行い、強制力がないものとした。

研修歯科医へのアンケート回答の依頼方法は、調査研修班の主任研究者から各単独型臨床研修施設、管理型臨床研修施設宛に電子メールにて、臨

床研修を行っている研修歯科医にWEB上でアンケートに回答を行うように依頼文を添付し、周知徹底を行った。

第1回目のアンケート回答者数は732名であり、平成18年度の回答者数638名よりも多かったが、第2回目のアンケート回答者数は347名であり、第1回目と比較して第2回目は半数の結果となった。第2回目のアンケートの回答依頼を行うにあたり、第1回目に回答した方もメンタルヘルスに関するアンケートにお答え下さいと依頼文に改めて追記を行ったが、第1回目と第2回目のアンケートは、同様な内容であったため、第1回目に回答したものは第2回目に回答しなくていいと研修歯科医が解釈してしまったことも一因として推察される。的確なデータ処理を行うためには、サンプル数が2000名程度になるようにアンケート依頼方法を考える必要があろう。今後、平成20年度以降の調査において、アンケート回答者数をより多くするためにも研修歯科医への情報伝達方法の再考が望まれる。

2. 職業性ストレス簡易調査票³⁾について

職業性ストレス簡易調査票³⁾は、職場で比較的簡便に使用できる自己記入式のストレス調査票であり、平成7年から平成11年度労働省委託研究「作業関連疾患の予防に関する研究」のストレス測定グループの研究の成果である。特徴として、ストレスの反応だけでなく、仕事上のストレス要因、ストレス反応、および修飾要因が同時に測定できる多軸的な調査票であり、ストレス反応では、心理的反応ばかりでなく、身体的反応も測定することができる。心理的ストレス反応では、ネガティブな反応だけではなく、ポジティブな反応も評価できる。あらゆる業種の職場で現在、使用されている。メンタルヘルスクエアにおける職業性ストレス簡易調査票³⁾は、セルフケア、ラインによるケア、事業場内産業保健スタッフ等によるケア、事業場外資源によるケアのいずれにおいても有用に活用することができ、労働者個人のストレス状態を評価する方法と事業場全体や部、課、作業グループなどの集団のストレス状態を評価する方法があり、事業場がおかれた状況等に応じて、適宜組

み合わせて実施する。職業性ストレス簡易調査票³⁾の質問項目数は、仕事のストレス要因、ストレス反応、修飾要因の3つから構成され、全57項目と少なく、回答は4件法（1＝そうだ、2＝まあそうだ、3＝ややちがう、4＝ちがう）で5～10分程度の回答時間で行うことができるものである。

仕事のストレス要因に関する尺度は9つであり、心理的な仕事の量的負担と心理的な仕事の質的負担、身体的負担、コントロール、技術の活用、対人関係、職場環境、仕事の適性度、働きがいの17項目から構成される。

ストレス反応については、心理的ストレス反応と身体的ストレス反応について測定でき、心理的ストレス反応の尺度は5つで、ポジティブな心理的反応の尺度として、活気、ネガティブな心理的反応の尺度としてイライラ感、疲労感、不安感、抑うつ感、身体愁訴の29項目から構成される。修飾要因としては、上司、同僚、および配偶者・家族・友人からのサポート9項目、仕事あるいは家庭生活に対する満足度の2項目から構成される。

仕事のストレス判定図は、事業場全体、部や課、作業グループなどの集団を対象として仕事の心理的なストレス要因を評価し、それが従業員のストレスや健康リスクにどの程度影響を与えているかが判定できる。今回、仕事の量的負担と仕事のコントロールをストレス要因として、それらから算出されたストレス度を健康リスクとしてプロットして表現した「量—コントロール判定図」、同僚の支援と上司の支援から作成する「職場の支援判定図」の2つを用いて、臨床研修施設の種別に比較検討した。判定図の斜めの線は、仕事のストレス要因から予想される疾病休業などの健康問題のリスクの標準集団（種々の業種、職種の労働者のデータベース（約25,000名））の平均を100としており、部署ごとに仕事の量的負担、コントロール、上司からの支援、同僚からの支援の平均点を算出すればそれぞれの部署の健康リスクを求めることが可能である。例えば、ある部署の総合した健康リスクが120の場合は、その部署において健康問題が起きるリスクが全国一般と比較して20%大きいと判断できる。ただし、判定図の作成にあたっては判定図の作成する部署の人数は少な